

2004年10月22日
株式会社 日立製作所
(コード番号：6501)

2004年9月中間期業績見通しの修正について

日立製作所は、下記のとおり2004年9月中間期の業績見通しを修正しましたので、お知らせいたします。

記

■2004年9月中間期の業績見通し

(1) 連結決算

単位：億円、()内は前年同期比

	2004年9月中間期 (2004年4月1日～2004年9月30日)			2003年9月中間期 (実績)
	今回見通し	前回見通し(*)	差異	
売上高	43,290 (107%)	41,500 (103%)	1,790	40,414
営業利益	1,270 (628%)	900 (445%)	370	202
税引前 当期純利益	1,360 (150%)	800 (88%)	560	905
少数株主持分 控除前利益	680 (475%)	430 (300%)	250	143
当期純利益	410 (762%)	250 (464%)	160	53

*「前回見通し」は、2004年4月28日に行った2004年3月期決算発表時の見通し

(2) 個別決算

単位：億円、()内は前年同期比

	2004年9月中間期 (2004年4月1日～2004年9月30日)			2003年9月中間期 (実績)
	今回見通し	前回見通し(*)	差異	
売上高	11,528 (102%)	11,100 (98%)	428	11,282
経常利益	96 (96%)	0 (-)	96	100
当期純利益	265 (138%)	150 (78%)	115	192

*「前回見通し」は、2004年4月28日に行った2004年3月期決算発表時の見通し

(3) 業績見通しの修正要因

当中間期の国内経済は、民間設備投資と輸出を中心に堅調に推移し、グローバル経済もデジタル家電の需要増加や米国を中心としたIT関連機器の需要増加に支えられ好調を持続しました。

このような状況下、当社の注力事業であるIT・デジタル家電関連の部品・材料及び製造装置等が総じて好調だったほか、海外事業も堅調に推移した結果、当中間期の当社の業績は、当初の見通しを上回り、全事業部門で前年同期より改善する見込みとなりました。

(注) 本資料における当社の今後の計画、見通し、戦略等の将来予想に関する記述は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等の結果は見通しと大きく異なることがあります。その要因のうち、主なものは以下の通りです。

- 急激な技術変化（特に情報通信システム部門及び電子デバイス部門）
- 新技術を用いた製品の開発、タイムリーな市場投入、低コスト生産を実現する当社及び子会社の能力
- 市場における製品需給の変動及び価格競争の激化（特に情報通信システム部門、電子デバイス部門及びデジタルメディア・民生機器部門）
- 為替相場変動（特に円／ドル相場）
- 資金調達環境（特に日本）
- 製品需給及び為替変動に対応する当社及び子会社の能力
- 主要市場（特に日本、米国及びアジア）における経済状況及び貿易規制等各種規制
- 自社特許の保護及び他社特許の利用の確保（特に情報通信システム部門及び電子デバイス部門）
- 製品開発等における他社との提携関係
- 日本の株式相場変動

以 上

このニュースリリースにおける将来予測に関する情報は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいています。このため、実際の結果と大きく異なったり、予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
